

平安時代 (794年～12世紀末)

都が平城京から平安京（京都市）に移され、平安京が政治の中心であった約400年。その間政治の中心は天皇から藤原氏による摂関政治、天皇を退位した上皇による院政、そして平氏政権へと変化した。

年号	天皇	文	事	柄	朝	中
794 (延暦13)	桓武		<p>平安京(京都府)に遷都</p> <p>暗記 鳴くよウグイス、平安京</p> <p>* 貴族や僧の間で勢力争いが激しくなる等で乱れた政治を立て直そうと784年に一時、長岡京(京都府)に遷都していた。</p> <p>* 右京は早くから寂びれ、左京と洛東(京都の東)が賑わった。</p> <p>* 桓武天皇は二官八省の制度を見直して令外官(律令に規定されていない官職)を新たに設置したり、勘解由使を設置して国司に対する監督を強化する等した。</p>			
802			<p>坂上田村麻呂、征夷大將軍(蝦夷征伐の將軍)に任じられ、蝦夷(朝廷に従わない東北地方の人々)を平定</p> <p>* 坂上は蝦夷の指導者アテルイを破り、東北地方を平定。</p> <p>* 同年鎮守府(蝦夷征討のために置かれた軍政府)を多賀城(宮城県)から胆沢城(岩手県)に移した。</p>		新羅	唐
805			<p>最澄、天台宗を開く</p> <p>* 空海は翌806年に真言宗を開く。</p>			
810 (弘仁元)		嵯峨	<p>(1) 藤原冬嗣、藏人頭(藏人所の長官)に就任</p> <p>* 藏人所とは天皇直属の役所として、機密文書や訴訟を扱う役所。</p> <p>(2) 薬子の变</p> <p>* 兄仲成と平城上皇復位と平城京復都を計画したが坂上田村麻呂らに阻止され失敗。仲成は殺され、薬子は自殺して藤原式家没落。なお、平城天皇の在位は806～809年。</p>			

平安新仏教(密教)

「密教」とは仏教の流派の一つで、深遠で凡夫(煩惱にとらわれて迷っている人)に推し量って知ることのできない秘密の教え。

	天台宗(台密)	真言宗(東密)
開祖	最澄(伝教大師)	空海(弘法大師)
総本山	比叡山(滋賀県)	高野山(和歌山県)
	延暦寺(桓武天皇の庇護)	金剛峯寺(嵯峨天皇の庇護)

藤原氏北家(冬嗣以降)

冬嗣 → ①良房 ②基経 ③忠平 ④実頼 ⑤伊尹 ⑥兼通 ⑦頼忠 ⑧兼家 ⑨道隆 ⑩道兼 ⑪道長 ⑫頼通 ⑬教通 ⑭師実

※丸数字は摂政・関白就任の順

藤原氏北家による他氏排斥事件

藤原氏	天皇	年	他氏排斥事件
よしふさ 良房	じんみょう 仁明	842	承和の変(伴健岑・橘逸勢を左遷)
	せいわ 清和	866	応天門の変(伴善男・紀夏井失脚)
もとつね 基経	うた 宇多	888	阿衡の紛議(橘広相を処罰)
ときひら 時平	くわい 醍醐	901	昌泰の変(菅原道真を左遷)
さねより 実頼	れいぜい 冷泉	969	安和の変(源高明を左遷)

不輸・不入の権

- ① 不輸の権…荘園は元来、国家に税を納めるのが原則であったが、寺田・神田・勅旨田等が不輸租の特権を認められていたのに倣って、荘園領主たちは不輸権を獲得するようになった。
- ② 不入の権…不輸の権獲得後も国衙と荘園との抗争は絶えず、荘園側はしばしば検田使の立ち入りを拒否できる権限を申請し、不入の権を獲得するようになった。

年号	天皇	文	事	柄	朝	中
842 (承和9)	仁 明		承和の変 *藤原良房、伴健岑・橘逸勢らの勢力を退ける。藤原氏北家の優位を確立。			
858 (天安2)	清和	弘 仁 ・ 貞 観	良房、摂政に就任(人臣摂政の初例) *この年、実質的に摂政となり、866年、正式に清和天皇の摂政となる。		新 羅	唐
866 (貞観8)	応天門の変 *伴善男が応天門に放火し、その罪を源信に負わせようとしたが発覚して流罪に処せられ、共謀者の紀夏井も処罰された。ここに伴・紀両氏が没落して藤原氏北家の隆盛が決定付けられた。 *応天門は平安京大内裏の朝堂院の南面正門。					
884 (元慶8)	光孝		藤原基経、関白となる(関白の初例) *この年、光孝天皇の事実上の関白となり、887年、正式に宇多天皇の関白の座に就いた。			
888 (延和4)	宇多	阿衡の紛議 *887年宇多天皇が出した関白の勅書には基経を阿衡に任じるとしていたが、阿衡には実職が伴っていないとして基経は政務を見なくなった。このため、翌888年に宇多天皇は勅書の非を認め、詔の起草者である橘広相を処罰。この事件は藤原氏の政治的立場が強化されたことを物語る。				

弘仁・貞観文化

嵯峨・清和天皇の時代の平安京の貴族を中心とした唐風文化。

【勅撰漢詩文集】

『凌雲集』814年 小野岑守ら編

『文華秀麗集』818年 藤原冬嗣ら編

『経国集』827年 良岑安世ら編

【他の漢詩文集】

『性霊集』(空海)

『菅家文草』(菅原道真)

【書道】

『風信帖』(空海)

【建築】

室生寺金堂・五重塔

【彫刻】

薬師寺僧形八幡神像〈木像〉

室生寺金堂釈迦如来像〈木像〉

観心寺如意輪観音像〈木像〉

教王護国寺講堂不動明王像〈木像〉

【絵画】

神護寺両界曼荼羅

教王護国寺両界曼荼羅

※嵯峨天皇・空海・橘逸勢は唐風書道の三筆と呼ばれた。

平安時代の教育機関

貴族は一族子弟の教育のために寄宿舎に当たる大学別曹を設けた。和気氏の弘文院、藤原氏の勸学院、在原氏の奨学院、橘氏の学館院がある。また、空海は庶民の教育機関として綜芸種智院を建てた。

菅原道真

「学問の神様」(天神様)として知られる菅原道真は、学者でもあった政治家。道真は右大臣まで出世したが、藤原時平の陰謀により901年、筑前国(福岡県)の大宰府に流され(昌泰の変)、その地で一生を終えた。道真の死後、都では雷が落ちるなど様々な天変地異が続いたため、人々はこれを道真のたたりと考え、天神様として祭るようになった。

三代格式

格とは律令制定以後、律令条文の補足や改正のために出された法令で、式とは律令・令・格の施行細則。弘仁・貞観・延喜格式を合わせて三代格式と言う。

①弘仁格式…嵯峨天皇の820年成立。

②貞観格式…清和天皇の869年に格が、871年に式が完成。

③延喜格式…醍醐天皇の907年に格が、927年に式が完成。

年号	天皇	文	事	柄	朝	中
894 (寛平6)			遣唐使廃止 暗記 白紙に戻そう、遣唐使 *唐が衰えたことで菅原道真が進言。		新 羅	唐
902 (延喜2)	醍醐		延喜の荘園整理令(最初の荘園整理令)			
905			紀貫之ら、古今和歌集編さん			
935 (承平5)	朱雀		平将門の乱 *将門は父の遺領を巡る紛争から伯父の国香を殺害して関東地方を制圧した。「新皇」と称し、下総(千葉県)猿島に王城を営んだが、940年、平貞盛・藤原秀郷らによって敗死。		高 羅	五 代 十 国
		国 風				
			平将門			
939 (天慶2)			藤原純友の乱 *伊予国(愛媛県)の役人であった藤原純友は瀬戸内海の内海を率いて乱を起こしたが、小野好古・源経基らに滅ぼされた。平将門の乱と藤原純友の乱を合わせて承平・天慶の乱とも言い、武士が起こした最初の反乱。			
958 (天徳2)	村上		乾元大宝、鑄造			

天皇による親政

天皇	治	内	容
宇多	寛平の治	関白・基経没後の親政。菅原道真を重く用いる	
醍醐	延喜の治	延喜の荘園整理令発布	
村上	天曆の治	乾元大宝発行	

※摂政・関白を置かず天皇自ら政治を行うこと

本朝(皇朝)十二銭

708年の和同開珎から958年の乾元大宝まで、国家による銅銭の鑄造は12回にわたり、「本朝(皇朝)十二銭」と呼ばれたが、富本銭が見つかったことで13種類となった。なお、これ以後天正年間までの600年ほどは貨幣を鑄造せず、専ら中国から輸入して使用した。

古代の宮都変遷図

